

あらぐさ

キャンプ 保健体育

in 丹波山村

7月18日～20日の3日間、3学年合同の保健体育の授業は丹波山村の奥秋キャンプ場で行われました。前日まで台風の接近により実施が心配されましたが、2日目からは好天に恵まれ丹波山村の大自然を満喫し、様々なプログラムに取り組みました。

今年のキャンプのコンセプトは、「各自が役割を持ち、主体的にキャンプに参加しよう！」です。事前に班長会議や係別会議を行い、便利な生活に慣れてしまった私たちは十分な準備で自然の中で有意義なキャンプにしようという取り組みをしました。

初日は小雨が時折降る中、自分たちでテントを張りました。夕食にはみんなで粉から山梨の郷土料理のほうとうを打ち、今年は各班が満足な出来ばえでした。

2日目はメインイベントの選択活動です。班ごとに山コース、沢川コース、ものづくり、魚釣り、のんびりなど活動コースを選びます。山コースは七ツ石山への登山、沢川コースはキャンプ場のわきを流れる東京多摩川の源流の丹波川を流れ下り、ものづくりは布ぞうり作りしました。魚釣りではニジマスを釣り、自分たちでさばき焼いて食べ、のんびりコースは丹波村のジャンボ滑り台を滑り丹波村を散策するなど、班ごとに豊かな丹波村の自然を満喫しました。

夜はファイヤーナイト。レク係りが中心になった楽しい企画で、最後の夜が思い出深いものになりました。

最終日はお好み活動。班行動から離れ、個人で楽しみました。キャンプの最後の時間は「静思」を通し、各自この3日間を振り返り奥秋キャンプ場でのキャンプは幕を閉じました。

キャンプレポートのタイトルは

「キャンプ前の私とキャンプ後の私」。

豊かな自然の中で、多少不自由な時間を過ごし、日常の自分と自分たちの生活を振り返る機会になれば…と期待しています。(教員：河野)



5月のゴールデンウィーク明けに、緑ヶ丘総合体育館で球技会を開催しました。この行事は球技会実行委員会が企画・運営しており、当校では学院際と並ぶ大きなイベントです。

種目決めやルール作り、会場の下見、当日の審判や進行も全て学生が行います。今年の種類はバレーボール、バスケットボール、ドッジボール、バトミントン、障害物リレーと各競技とも大いに盛り上がりました。

大会当日、3年生は全員で揃いのクラスTシャツを着て優勝を狙いました。2年生は実行委員を中心に大会運営を担いながら奮闘しました。1年生は若さを武器に始めての大会で先輩たちに挑みました。

各種目で熱戦が繰り広げられた結果、優勝3年生、準優勝2年生、3位1年生、4位は教員チームでした。

教員：押領司



入学してから早3ヶ月！1年担任：塩澤



37期生は43名と他学年に比べ多人数であることに加え、社会人が11名、男子学生が11名と、バラエティ豊かなメンバー構成です。

クラスの雰囲気はとても明るく、入学直後から何カ月も一緒に過ごしたような距離感でした。

入学後一ヶ月後の5月には慣れない学校生活の中で行われた球技大会や学院祭といった学校行事に一生懸命取り組み、クラスメイトのいろいろな一面を知る良い機会となりました。右も左もわからないながらも、球技会と学院祭の実行委員が中心となり、クラスで一つの事に取り組んだ達成感を得ることが出来ました。

学習面では看護技術の練習を土曜日や放課後の時間を使って一生懸命取り組み、目標に向かって他者と協力し、とことん努力する姿がみられました。

初めての臨地実習では、校内実習や教科書の知識がそのまま通用しない難しさに直面し、大いに悩みました。実習後行われた基礎I実習のまとめでは、同じ患者さんは一人としておらず、患者さんの個別性に合わせた援助の工夫がとても重要であることなど、看護として大切なことをたくさん学んでいたことがよくわかりました。わずか3ヶ月で人はこんなにも成長することに感動するとともに、看護を学ぶ仲間としてとても頼もしく感じました。担任・副担任と協力し、37期生一人ひとりの成長を間近で支えつつ、ともに看護について学びあっていきたいと思っています！



実習・労働体験に奮闘!

2年担任：鈴木



6月3日に成人看護学総論Ⅱの授業で、農家などの労働を体験しました。早朝からの作業でしたが、2年生の働きぶりは、受け入れて下さった農家の方々から大好評でした。

また、作業だけではなく、授業の目的でもある「労働が生活に与える影響」について学びを深めました。

6月～7月は5週間にわたる老年看護学実習Ⅰと小児看護学実習Ⅰを終了し、長期の臨地実習を経験しました。老年Ⅰ実習では、今までの基礎実習とは異なり、「対象に必要な看護を見出す」という大きな目標に取り組みました。小児看護学実習Ⅰでは、保育園実習に1週間出向き、元気な子どもたちと触れ合う中で、健康な児の成長発達を学びました。

実習中は緊張し、帰宅後はレポート作成に追われ睡眠時間も少なく、苦勞もありました。患者さんへの必要な看護を見出すことに悩み、苦しむこともありましたが、5週間の実習を終えた2年生が一回り大きく成長できたことを実感しています。

グループの仲間と助け合い、励ましあい、仲間を大事にしながら実習を終えた36期生は、後期の4ヶ月実習に向けて頑張りぬく準備ができました。



今後のご家族をはじめ臨地実習場の皆様に、色々な場面で支えていただくことによって、本来の力が発揮でき、成長できると信じています。

成長を共に喜び合い、学生への支援を精一杯していきたいと思います。

3年生は過酷だけど大きく成長できる時

3年担任：岩波



3年生は41名でスタートしました。4月からケース発表会、国家試験対策、社会福祉演習、最後の球技大会・雑草祭と、これまでにない過密なカリキュラムをこなしました。

5月末からは地域看護学実習Ⅰ（診療所）、精神看護学実習Ⅰ・Ⅱ（通所・病院）と4週間の実習を行いました。様々な患者さんと出会う中で、看護観を深め、一回り大きく成長する機会となり、これらの経験は、看護を広く学ぶことにつながりました。

3年生には【国家試験全員合格】という大きな大きな目標があります。その目標を達成するために、クラス目標は「PUZZLE ～COMPLETE 全員合格～」と掲げ、朝・昼・放課後に学生中心にグループ学習に取り組んでいます。

グループ学習を通して仲間で教え合うことや、学ぶ・知ることの楽しさを実感している学生も少なくありません。しかし、国家試験に合格するにはまだまだ学習時間が足りません！

毎日当校し、補講やグループ学習、個別学習などなど…今後も仲間と学び合うことを大切に、これからも一緒に頑張りましょう！

父母の会より

■経過・予定

- 4月 ・入学式・2015年度総会・病衣セット1年生に贈呈
- 5月 ・雑草祭豚汁づくり(完売120食)・2,3年生用実習備品バッグ購入
- 6月 ・入学記念写真1年生に贈呈
- 7月 ・2,3年生合同部会開催・2015年度第一回役員会
- 8月 ・原水爆禁止世界大会参加学生への補助
・年度会費5000円納付通知発送(9月末納付期限)
- 11月 ・1年生戴帽式 記念品贈呈予定

■7/24 2,3年生合同部会 (御家族12名出席)

学校より4月からの活動と学生状況、国家試験対策が報告され、下記4点の家族サポートのお願いがありました。

- ①規則正しい生活 ②学習時間確保 ③精神的サポート④経済的サポート

■7/24 第一回役員会 (役員12名出席)

1. 1年生戴帽式へナースウオッチ寄贈. 式後学校との懇談
2. 2年生実習激励・成人祝い記念品は図書カード.
3. 3年生国家試験学習の応援(3年生の家族が1月頃実施)
4. 共立高看及び同学生自治会からの相談事項
 - (1) 寄贈の願い: 2,3年生—実習カジュアルバック
1年生—演習用備品(病衣セット)(承認)
 - (2) 課外活動補助費より原水爆禁止世界大会参加費用を補助する.(承認)
4. 教育活動、学校運営についての意見交換と交流
親としての助言の仕方、購入PCの推奨タイプ、駐輪場不足等について話合いました

35期生の皆様へ

看護師国家試験に関わる費用(クラス費) 徴収方法のお知らせ

【納付日】1回目4月末日 2回目7月末日
【問い合わせ】事務課 水上・豊田
055-228-732

5

今後の予定♪

7月 23日～8月18日	夏季休暇
8月 20日～9月9日	3年生実習
9月 3日～9月16日	1年生実習
9月 24日	3年生終講テスト
9月 24日～9月28日	1年生終講テスト
9月 24日～9月29日	2年生終講テスト
9月 28日～12月4日	3年生実習
10月 26日～12月4日	2年生実習
11月14日	1年生戴帽式
12月15日, 16日	3年生卒業研究発表会
12月18日～1月4日	冬季休暇
12月25日～27日	保健体育スキー

◇ 教職員参加の研究・研修活動 ◇

- 7月25日 訪問看護師継続研修会…鈴木、宮川
- 7月25日 看護教員のための授業力upのポイント…中込
- 8月6,7日 日本看護学校協議会…河西
- 8月6,7日 日本看護学会(看護教育)…押領司
- 8月18,19日 日本看護教育学学会…押領司、塩島、成島

2015年度 教職員紹介



4月から前任の上嶋准嗣よりバトンを引き継ぎ、学院長を拝命しました。

元気な学生達と接し、自分の学生時代を思い出しました。

私が山梨大学医学部（当時は山梨医科大学）の門をくぐったのは35年前です。新設大学で、入学当時はまだ大学らしい建物も殆どなく、入学前の見学で大学と思って立ち寄ったのは隣の小学校の体育館でした。

大学の建物は、広大な野原の真ん中にぽつんと立つ、公民館のような2階建の建物で、グラウンドも釜無川の河原のように大きな石がゴロゴロして、大学とは思えない環境でした。それでも、学ぶ医学への期待と、自分が医療現場で活躍できるのかという将来への漠然とした不安を抱えながら学生生活を過ごしました。

大学を卒業し、山梨勤労者医療協会に入職以来、主に外科医として30年近く共立高看の卒業生と仕事をしてきましたが個性あふれる元気な看護師が多く、楽しく仕事が出来ました。彼等・彼女等と接し、どういう教育を受けてきたのか、興味津々でした。

この度、このような機会を得て、本校の特色あるカリキュラムや制度の一端に触れ、少し謎が解けた気がしています。

ところで、今、医療の現場は、人手不足が顕著です。医師も看護師も足りません。人類が経験したことのない超高齢社会を迎えつつある日本では一人でも多くの、元気で有能な看護師の育成が期待されています。また、大きな災害が起きた時には、困難があっても、ひるまず駆けつけてくれるような医療従事者が必要とされます。これまでも数多くの有能な看護師を輩出してきた本学院が、これからもそうであり続けられるよう、微力ながら力を尽くす所存です。

宜しく願い申し上げます。



学院長：内藤 恵一

学校運営を下支えする事務業務を担っています。式典の司会・進行係り、防火管理者です。限られた予算の中で充実した学習環境をどのように作るかも考えます。



副学院長：雨宮 久子

「ニコニコ・ピンピン・モリモリ」
をモットーに
看護の世界で約40年。
学生と教職員が
生き生きと学び、成長する姿が
何よりの喜びです。



事務長：水上 和貴

各種証明書の事務手続きから、コピー、用紙の注文など細かいことを何でもお声かけください。学生生活の潤滑油となるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



事務：豊田 裕子



実習調整者から教務主任となり、実習指導に行くことがめっきりなくなりました。学生の皆さんの実習の様子を教員からきくことが楽しみです。
教務室にいつもいますが、目指すはアクティブ教務主任です。



教務主任：河西 光子



今年度から実習調整者となりました。学生の皆さんが楽しくのびのびと実習で学べるよう、様々な実習調整に奮闘していきたいと思えます！体力の衰えを実感する今日この頃…今年度はパワーアップと持久力を目指します。

実習調整者：梶原奈津子



教育活動調整者：押領司民

お おかげさまで、教員になって早19年。
 う 上手く付き合えるかな？年齢差が大きい学生達と。
 りよ 了解！！基本は学生の気持ちを理解するところから。
 う うまくいかないこともある。でも、あせらず、あわてず、あきらめず。
 じ じっくり良い関係を作ります。今年もよろしく願いいたします。



教育活動調整者：河野朝呼

小児看護学担当の保健師です。学生たちと楽しく授業・実習することをモットーにしています。よろしく願いします。

母性看護学専任教員（助産師）です。この夏は、3年生の国家試験対策をはじめとする学習対策に奔走します！プライベートの夏休みは、小2の息子のサッカーとプールに付きあって終わってしまいそうです。よろしく願いします。



3年副担任：藤本未央

担当は基礎看護学で、2年生の副担任です。学生と一緒に看護について考え、成長し続けていきたいです。



2年副担任：中込英利香

3年担任：岩波美和

高齢者、特に認知症の高齢者とのコミュニケーションを得意とする、老年看護学が担当の岩波美和です。学生に寄り添いながら、学生の力を信じて、関わりたいと思っています。学生と関わることは私の活力です。楽しい学校生活にしていましょ！！

2年担任：鈴木美緒

地域看護学担当教員です。学生の立場に立ち考え、行動できる人でありたいと思っています。日々学生への教育を通して、自分も成長させてもらっていると感謝しています。



教員8年目、老年看護学を担当している成島です。学生一人ひとりが成長する姿を、ちゃんと見守れるような教員を目指して、様々なことに全力投球していきたいと思っています。よろしくお願いします。



1年副担任：成島美里

教員2年目、成人看護学を担当している塩澤です。学生のみなさんの新鮮な反応や学びに、私自身が学ぶことばかり。多くの時間を共有し、たくさん話をしながら、看護について皆さんとともに学び合っていきたいと思っています。よろしくお願いします。



1年担任：塩澤志穂

在宅看護論を担当しています、フレッシュな感性を持ち無限の可能性を秘めた学生と看護を学び考え語り合えることを楽しみにしています。

技術演習担当：宮川江里



学校用務：長田忠直



孫のような学生たちと触れ合う毎日が張り合いです。学校の施錠、見回り、植木の手入れ他、学生たちを見守っています。

私が薦めるこの一冊（水上）

『自由からの逃走』 E フロム (Erich Fromm 『ESCAPE FROM FREEDOM』 1941) 初版 1952 東京創元社 1,836 円
『愛するということ』 E フロム (Erich Fromm 『THE ART OF LOVEING』 1956) 初版 1959 紀伊國屋書店 1,363 円

多くの学生の皆さんが一度は「自由とは何か」「愛とは何か」と考えたことがあるのではないのでしょうか。これまでの人生で孤独や不安を感じたことはないのでしょうか。2冊が考えるヒントになれば幸いです。私なりのポイントと感想です。

『自由からの逃走』-民主的選挙制度の下で独裁的支配体制が生まれた心理的背景をヒューマンな自由観と共に述べる。中世社会の宗教的世界観と身分制度等による固定的社会秩序の共同体では人間に近代的意味での個人や自由はないが孤独や孤立もなく伝統的絆により精神的な安定を得ていた。(=第一次的絆) 中世的社会組織の崩壊と資本主義の発生は個人に中世的伝統的絆からの解放と独立の感情と共に巨大な物質的富の生産力をもたらした。この過程は人間に能動的で批判的な責任ある倫理を成長させた一方で孤独と無意味と無力の感情も与えた。(近代人の自由の二面性)「人間は他人と何らかの協同なしには生きられない」、「自己を他人や自然とちがった個体として意識する思考能力を持つ故に宇宙や自分以外のものと比較して自己の卑小さや無意味さを感じ、どこかに帰属しない限り、生活に意味と方向性がない限り自らを一片の塵のように感じ、個人的な無意味さにおしつぶされてしまう」。人格的自由と孤独という二面性の中で人間に残された道は「愛情と生産的な仕事



の自発性の中で外界と結ばれる」か「自由や個人的自我の統一性を破壊するような「絆」によって一種の安定感を求めるか」のどちらかである。(ここには母親と子供の関係の変化(依存から自律)という個人の生涯との類似性がある) 後者は、サディズム、マゾヒズムという「権威主義的性格」(著者)の現れであり見せかけのいかに拘わらず本質的には「弱さ」と「依存」に根ざすものと指摘し、その視点からヒトラー・ナチズムとそれを支持した心理を分析します。その中で、フロイト心理学の功績を評価しつつ、そこには心理と社会過程の連関が欠けると述べます。人間の歴史は社会的には規定されない心理的な要素の結果であるとのフロイトの説明を退け、心理は社会や文化の状況の所産であると強調します。(『社会学化されたフロイト主義』-訳者) 個体にあるリビドー(欲動)概念を社会過程を考慮せず単線的に人間の歴史観に敷衍することに学問的にも社会への影響においても強い危機意識をもっていたことが窺えます。政治的文化的危機は、個人主義が多すぎることではなく、個人主義が空虚な殻になってしまったことによるとの指摘に首肯します。著者は自己を超越するものへの依存と従属により部分となるのではなく、理性と外部との絆により自由でありながら孤独でなく、批判的でありながら懐疑的ではない社会は可能であると言います。

初版から73年、時の経過を感じる記述もありますがドメスティックバイオレンス(DV)、いじめ、ヘイトスピーチ、報道圧力発言、オカルト等の今日的な「反知性主義」や神秘主義の背景を考える手がかりになります。現代社会の孤独と不安の分析、心理的要因と社会経済的要因を統合した方法、理性的な協同による新たな連帯性の提示、これらが現代社会の日常の人間関係から社会問題までの諸事象の心理面からの理解を助けます。ユダヤ人心理学者である著者はナチス党の伸張の中で亡命を余儀なくされます。そして「心理学者は必要な厳密性を犠牲にしても現代の危機を理解する上に役立つようなことがらを、すぐさま提供しなければならない」と述べ本書を執筆します。(ヒトラー・ナチス党はベルサイユ体制からの脱却を指向し、本書発行の8年前(1933)にワイマール憲法を事実上停止し(受権法)、1935年に徴兵制復活と軍備拡大を行い、発行された1941年にはユダヤ人迫害を急加速する。20歳以上男女普通選挙権と比例代表制、大統領公選制の下で道德教育、高速交通網、ベルリンオリンピック、領土問題、失業対策で国民の支持を広げ選挙で第一党となった。強引で恫喝的な手法で他党派を圧迫しつつ最終的に政党結成を禁止した。-この括弧内の参考書籍:『図説ドイツの歴史』石田勇治 河出書房新社、『ワイマール共和国史I』E.アウペリかん社、『50のドラマで知るドイツの歴史 祖国統一への道』M・マイ ミネルヴァ書房)

『愛するということ』

前掲書で、愛とは当事者二人の独立と統一性に基づく人間同士の結合であり、平等と自由に基礎づけられると述べる著者が、実存問題への解答として親子愛、兄弟愛、母性愛、自己愛、エロチックな愛、神の愛についてわかりやすく語ります。愛は人格の統一性を喪失した服従というマゾヒズム的依存関係ではない、また、当人の為に支配するという主張は愛を装ったサディズムによる支配の享楽に他ならないと指摘します。愛に悩む人、恋人を求める人、家族間の関係に悩む人、人間のより深い理解を求める人にお奨めします。以下、印象的などころ一部紹介します。愛の問題を「愛することの問題」としてよりも「愛されることの問題」と考えて自分を魅力的に見せるために成功、地位、権力、お金、外見等を重要視する人や、愛は対象を見つけ出すことが難しいのであって愛する能力の問題ではないと考える人が多いがそれは誤解である。愛は、相手の中に信頼を生じさせる「技術」であることを知ることから始めなければならない。技術であるからには音楽、絵画、建築、治療などと同様に理論、知識、習熟により学び身につけるものである。恋に陥ることと愛しているという持続的状態を混同してはならない。互いに夢中になる強さが愛の強さの証拠ではない、それは会おう前の淋しさの程度を示すものにすぎない。愛の失敗を克服する適切な方法は失敗の理由を調べ、愛の意味を学ぶことをはじめることである。etc。(本書文中の「技術」はskillやtechniqueではなくARTです。(原題参照)人間的に創り上げるものと解されます)



ミルトン・メイヤロフは、影響を受けた人物の一人にJ・デューイ等とともにE・フロムを挙げています。両書ともメイヤロフ理解の一助となります。(『ケアの本質 生きることの意味』9頁, 213頁)

編集後記

安全保障関連法案は衆院を通過し審議は参院に移った。「平和憲法を放棄するのか!」やむにやまれず声をあげた戦時体験をした高齢者、そして立ちあがった若者、教育・研究・文化人・医療者など。今を生きる私たちは未来に禍根を残さぬよう社会の事象に目をそむけずにしっかり向き合いたいものです。学生代表2名が、平和を願い長崎の原水爆禁止世界大会に参加します(A)

